

環境情報 Magazine

2016 Autumn

VOL. 3

全国ユース 環境ネットワーク

全国ユース環境活動
発表大会
参加校募集中!!
詳細についてはP2～P4をご参照ください。

ご挨拶



独立行政法人環境再生保全機構
理事長

福井光彦

平素は、環境行政及び地球環境基金事業にご協力を賜り、御礼申し上げます。

地球上では、二酸化炭素による温暖化や砂漠化、熱帯林の減少、生物多様性の損失など様々な環境問題が深刻化しています。こうした状況の中、2015年度には2つの大きな動きがありました。

ひとつは、2015年9月の国連総会において、持続可能な開発目標(SDGs)が採択され、経済、社会及び環境の三側面のバランスが取れた統合による持続可能な開発の達成という考え方が明らかにされました。

もうひとつは、2015年11月にパリで開催された気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)において2020年以降2030年に向けた取組の新しい国際枠組であるパリ協定が合意されました。我が国も、2030年度において、2013年度比26.0%減の水準にすると新たな温室効果ガス削減目標を策定し、また、長期的な目標として、2050年までに80%の温室効果ガスの排出削減を目指すこととしています。

こうした「持続可能な開発の達成」や「気候変動への対応」を推進していく上で、「様々な主体の参加と連携」や「長期的な視点」がますます大切となっており、とりわけユース世代の役割りが重要となってきていることは言うまでもありません。

こうした状況をふまえ、昨年度、環境省と独立行政法人環境再生保全機構において「全国ユース環境ネットワーク促進事業」を創設しました。本事業は、ユースに対して、志を同じくする仲間や先輩等との交流や、活動を通じて得た学びを共有するネットワークを形成し、もってユースの能力開発を図ろうとするものです。

また、その事業の一環として、本年2月に環境省、独立行政法人環境再生保全機構及び国連大学サステイナビリティ高等研究所の主催で第1回全国ユース環境活動発表大会を開催いたしました。全国から選りすぐりの環境活動を実践する高校生が、日頃の活動内容を披露しあい、同世代が行う活動から、多くの気づき、学びを得ることが出来ました。

第2回となる今回からは、大学生の環境活動を対象とした、全国大学生環境活動コンテスト(ecocon)との協力も始めることとし、「ユース世代の参加と連携」及び「長期的な視点」の醸成という観点から、ユース世代の環境活動をより積極的に応援していくこととしております。

皆様方におかれましては、本事業の趣旨をご理解いただき、積極的な参加をいただきますよう、お願い申し上げます。

参加高校募集中!

「第2回 全国ユース環境活動発表大会」

第2回全国大会の
日程が決定!

2017年2月4日(土)&5日(日)
国連大学で開催! (詳しくは、P3~P4をご覧ください。)

事務局より、「第1回大会」の様子をご紹介します。

全国ユース環境活動発表大会とは

「全国ユース環境活動発表大会」は、環境省と独立行政法人環境再生保全機構が進める「全国ユース環境ネットワーク促進事業」の一環として開催しています。環境活動を実践する高校生が一堂に会する「出会いの場」であり、創造力を働かせて行っている自らの環境活動の発表をし、相互研鑽を行う場として実施しています。

応募をしてください!

ご応募いただくと、書類選考により、出場高校を選出させていただきます。また、大会への出場が叶わなかった場合でも、環境活動実践高校として「全国ユース環境ネットワーク」に登録され、次号の環境情報誌に高校名を掲載いたします。以降、いろいろな環境情報もご案内させていただきます。

全国大会は、2日間開催!

「第1回大会」は、2日間開催いたしました。1日目は「ESD学びあいフォーラム」、2日目は「環境活動発表大会」と表彰式です。「ESD学びあいフォーラム」では、基調講演やワークショップを実施し、環境活動を推進している先輩や仲間と出会い、大変に有意義な交流の時間を過ごしました。フォーラムの後の「交流会」も、とても盛り上がっていました。

表彰は?

「第1回大会」では、以下の表彰を行いました。

- ◆ 環境大臣賞 1校 (賞状、副賞:アメリカ環境研修)
- ◆ 環境再生保全機構 理事長賞 1校 (賞状、副賞:北海道環境研修)
- ◆ 特別賞 2校 (賞状、副賞:記念品)
- ◆ 優秀賞 16校 (賞状)

受賞した高校生の感想

「賞」を頂いたことに誇りを感じ、地域の方はもちろん評価して下さった方にも恥じない活動をしたと意識するようになりました。より一層活動に対して誇りを持てるようになりました。



広く、設備の整っている会場



社会人と大学生、高校生が楽しくワークショップ



環境大臣と一緒に記念撮影

<第1回 全国ユース環境活動発表大会> 【副賞】国内外 環境研修

★ 環境大臣賞

「高校生参加による、アメリカ 環境体験プログラム」

参加校(受賞校) 静岡県立静岡農業高等学校 (生徒3名&教諭1名)

日時 平成28年7月26日(火)~7月30日(土) 3泊5日
場所 アメリカ合衆国オレゴン州ポートランド
内容 ① オレゴンの歴史・自然体感
② 環境に配慮した持続可能なまちづくりの理解
(関連施設の見学・専門家による講義等)
③ 米環境保護庁、ポートランド市、ポートランド州立大学との意見交換

三泊五日のポートランド研修では、ウィラメット川の保全活動や、環境保護区の方との交流など現地の環境活動の調査やそこに住む人と交流をすることができました。海外の自然との向き合い方や価値観を学ぶことが出来ました。アメリカで出会った方たちが温かく迎えてくださったのがとてもうれしかったです。



参加
高校生の
感想

★ 環境再生保全機構 理事長賞

「高校生参加による、北海道 環境体験プログラム」

参加校(受賞校) 京都市立伏見工業高等学校 (生徒4名&教諭1名)

日時 平成28年8月8日(月)~8月10日(水) 2泊3日
場所 北海道千歳市、苫小牧市、安平町
内容 ① 北海道的景観体感 ② 酪農・畜産民泊体験
③ 畑作農家民泊体験 ④ 貢献プラン作り・実践

参加
高校生の
感想

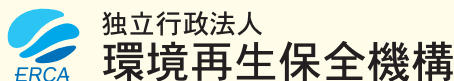
今回二泊三日の国内環境体験プログラムではカヌーや牛の世話、薪割りなどとにかく初めてのことが多くとてもワクワクしました。自給自足の生活を身をもって体験することができとても良かったです。また民泊をすることで人の温かみを感じ大家族の一員になったような気分になりました。



みなさんも、ぜひ第2回大会で受賞して、海外&国内の環境研修を体験してください!

「第2回 全国ユース環境活動発表大会」

■ 高校生が実践している環境活動を募集しています！



大会概要

名 称	第2回 全国ユース環境活動発表大会
日 程	平成29年 2月4日(土)～5日(日) (1日目) 全国ユース環境フォーラム (2日目) ユース環境活動発表大会、表彰式
会 場	国連大学 ウ・タント国際会議場 (東京都渋谷区神宮前5丁目53-70)
主 催	全国ユース環境活動発表大会 実行委員会 〈環境省・独立行政法人 環境再生保全機構・国連大学サステイナビリティ高等研究所〉
協 力	環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO) 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)、全国大学生環境活動コンテスト実行委員会 WWF ジャパン
協 賛	キリン株式会社、協栄産業株式会社、SG ホールディングス株式会社

KIRIN

KYOEI

SGH

大会プログラム(予定)

1日目 2月4日(土) 「全国ユース環境フォーラム」(仮称) 13:00～18:00頃

- ◇ 開会式
 - ◇ 基調講演 (今年度のテーマ・講師=未定です。)
 - ◇ 高校生・大学生・社会人でのワークショップ
「世代」を超えて、持続可能な社会の形成をテーマにワークショップを行います。
 - ◇ 交流レセプション (盛り上がり、交流&情報交換を!)
- ※2月4日(土)は、遠方の方については、主催者において宿泊をご用意いたします。



第1回大会 ワークショップで他校と交流

2日目 2月5日(日) 「ユース環境活動発表大会・表彰式」 9:30～15:00頃

- ◇ 高校生環境活動 発表 16高校
- ◇ 大学生環境活動 発表 2大学
- ◇ 審査委員 講評
- ◇ 表彰式 ～表彰状贈呈～
- ◇ 閉会式
- ◇ 交流レセプション (自由参加)



第1回大会 集合写真 ピース！

参加高校生 募集中!

応募締切 11月11日(金)

■ たくさんの方々からの資料請求、お待ちしております!

表彰

最も優れた活動発表を行った団体に対して、環境大臣賞の贈賞を行います。
今年度は、国連大学サステナビリティ高等研究所 所長賞を加え、以下の贈賞を行います。

- ① 環境大臣賞
- ② 独立行政法人環境再生保全機構 理事長賞
- ③ 国連大学サステナビリティ高等研究所 所長賞
- ④ 特別賞
- ⑤ 特別賞
- ☆ 優秀賞(上記の受賞者以外の全団体に贈賞いたします。)



第1回大会 環境再生保全機構
理事長賞受賞 記念撮影

募集要項

応募資格	環境活動の実践者が高校生であれば、応募できます。 高校や所属団体を通じて応募してください(高校以外の活動団体も可)。
募集内容	地球温暖化対策、低炭素、生物多様性の保全、自然共生、資源循環など、「環境」に関わる活動。
ポイント	今年度、実践している環境活動を応募してください。過去からの継続活動も応募できますが、主に今年度実践した活動について審査いたします。
選考審査	外部有識者などを含む審査委員により地区審査会を開催し、選考します。 出場団体は、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄の各地区ごとに選考し、全国から選ばれた16の団体が出場します。
審査基準	高校生の環境活動に対し、以下の観点から総合的に評価します。

自主性

テーマ

協力・協調

目標達成

発信力

総合評価

全国大会応募について

まずは、詳しい資料を請求してください!

請求方法	本誌に同封の「大会資料請求用紙」を、下記事務局あてにFAXにてお送りください。 事務局より、「応募用紙」ほか、必要資料をお送りします。 応募締切日までに、「応募用紙」ほか必要資料を事務局あてにお送りください。 ◇ご提出いただいた書類は、返却いたしません。ご了承ください。
------	--

請求先	FAXにて、「大会資料請求用紙」をお送りください。 FAX番号:044-520-2192 全国ユース環境ネットワーク事務局
-----	--

応募締切	平成28年 11月11日(金) 18:00まで
------	-------------------------



<お問合せ> 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金内 全国ユース環境ネットワーク事務局
TEL:044-520-9505 FAX:044-520-2192 Email:youth@erca.go.jp

「第1回 高校生環境座談会」

～2050年に向かって。私たちの思い～

将来の日本や世界が持つ環境課題の解決に寄与するため、「高校生」が集まり、思いを話し合い、また今後の環境活動の一助にするために「高校生環境座談会」を開催いたしました。誌面の都合上、座談会の内容を抜粋して掲載いたしました。

主催 地球環境基金、全国ユース環境ネットワーク事務局

日時 2016年6月18日(土)

会場 廣告社会議室(東京都中央区銀座6-8-7 交詢ビル) **撮影** 佐藤佳穂



左より 茨城県立竹園高等学校の秋葉俊祐さん(3年)、内澤謙昇さん(3年)、宮城県農業高等学校の佐藤亜記さん(2年)、渡邊翼さん(2年)、法政大学女子高等学校の若尾咲輝さん(3年)、永野日奈子さん(2年)

<出席高校/参加者>

神奈川県横浜市

法政大学女子高等学校 …… 通称) 法女

エコ・アクション・プロジェクトチーム 若尾 咲輝さん(3年)、永野 日奈子さん(2年)

茨城県つくば市

茨城県立竹園高等学校 …… 通称) 竹高

JRC部&生徒会 内澤 謙昇さん(3年)、秋葉 俊祐さん(3年)

宮城県名取市

宮城県農業高等学校 …… 通称) 宮農

科学部 復興プロジェクトチーム 渡邊 翼さん(2年)、佐藤 亜記さん(2年)

Q それではまず、みなさんの高校と環境活動をしている団体について紹介してください。

永野(法女) 名誉校長であった野上弥生子先生の「女性である前にまず人間であれ」という教えの下、生徒は自由ののびのびと生活しています。

若尾(法女) 私たちエコ・アクション・プロジェクトチームは「持続可能な環境と社会の実現」を目指す有志生徒の集まりです。活動し始めて3年目、約40名で環境問題に取り組んでいます。利用駅周辺の清掃活動、学内の節水・節電、学食から出た廃油をせっけんに精製・配布する運動などを行っています。



法政大学女子高等学校

学食から出た廃油を精製し製作したせっけん。校内などに配布した。

内澤(竹高) 筑波研究学園都市初の公立高校として1979年に開校し、今年で創立38年目を迎えました。普通科と国際科の2学科があり、進路希望の実現はもちろん、「国際社会をリードする人材の育成」を教育目標に掲げています。僕たちは毎日楽しく、バリバリ勉学に励んでいます。

秋葉(竹高) 団体名のJRCは、Junior Red Cross(青少年赤十字)の略で、簡単にいうとボランティア部です。17名で活動していて、主に災害被災地への義援金の募金活動や、ペットボトルキャップ・古紙回収、献血の呼び掛けなどを行っています。昨年の常総市の洪水被害の際は、校内で絵本を集め被災した子どもたちに500冊を寄付。それから、毎年古紙回収で得た収益でつくば市に車椅子を寄贈していますが、それが8台目となりました。

渡邊(宮農) 1885年に名取市に開校した日本最古の農業高校で、農業科、園芸科、生活科、食品化学科、農業機械科があります。校舎は東日本大震災の津波で流されたため、現在は宮城県農業大学の敷地内にある仮設校舎で学んでいます。

佐藤(宮農) 科学部の部員は12名で、「復興プロジェクトチーム」として沿岸部にサクラとバラを植え、緑を取り戻す活動を行っています。バラは中国の東北地方・貴州省原産の刺梨(ツური)という品種を育て、その果実を利用したお茶を商品化したり、ジャムなどを作っています。



茨城県立竹園高等学校

先輩が企画制作した「環境カルタ」。つくば市内の小学校で教材として使われている。



宮城県農業高等学校

バラの一種「刺梨(ツური)」を育て、それを果実茶として商品化。おいしい！

Q 現在の日本、世界の環境問題で、みなさんが今感じていることは何ですか？

若尾(法女) 高校は京浜工業地帯にあり、大気汚染や排水汚染などはこの30年で随分改善されましたが、まだ不十分。人間がモノの豊かさを追求した結果、新たに生態系破壊や地球温暖化といった問題が起きています。

内澤(竹高) そう、確かにあらゆる面で便利になったけど、日本だけでなく地球環境全体が急速に悪化している。

永野(法女) 人間は便利なモノを開発し、中には革命的なものもありますが、その便利さに甘え、どんどん欲が出てきてしまった。その結果が温暖化なので、元に戻すのは人間の役目だと思います。

秋葉(竹高) 便利な生活を求めて機械化が進み、どんどん電気を使う。その意味を深く考えることは大事だけど、誰でもすぐできる節電・節水も大事じゃないかな。

渡邊(宮農) 地元のことでいえば、やはり東日本大震災で岩手や宮城の自然全体が大きく変わったと思う。沿岸部では草木をすみかにしていた昆虫が消え、内陸部でも山を崩して土砂を採取するので緑がなくなり、野生動物に影響が出ています。

佐藤(宮農) 良質な土壌を10cm作るのに千年、1cm作るだけでも百年かかるといわれています。東北の自然を回復するには、農業や微生物の力を借りるなどして、私たち人間が手助けしなくてはと思います。

Q 「2050年」に向かって、高校生が今やることって何でしょうか？

佐藤(宮農) 私たちは今、サクラの植樹を進めていますが、この活動が広がっていけば、34年後の東北はもっと緑にあふれていると思います。

渡邊(宮農) 僕も、東日本大震災で失った緑を取り戻すことが一番大事だと思っています。

永野(法女) 一人の力は知れているけれど、今やっている活動や問題意識をみんなに広げていくことが大切です。

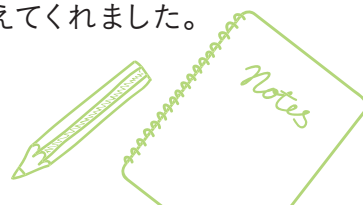
若尾(法女) 私は、仕組みづくりが必要だと思います。例えば、レジ袋。今でも当たり前のように使われたり、2円で売っています。それはレジ袋がまだあるからで、無ければ買わないし使わない。極端な話ですが、環境に悪いモノをなくすのも大切だと思います。あとは、レジ袋や紙袋を使わなければポイントが付くとか、割引になるとか。そうすれば、自然と環境に配慮した行動ができるのでは？

佐藤(宮農) それ、いいと思います。企業が気付かないと実現できないから、私たち高校生がその考え方を広めるために動かないといけない。

内澤(竹高) 今、すごく感動した！レジ袋をくれないと、その店で買い物をしなくなるかもと思ったけど、環境を第一に考えるなら、売らない・渡さない。そういう仕組みを作れば、周りを巻き込むことができるので、これはスゲーって思いました。

秋葉(竹高) 個人的なことになりますが、ソーラー発電に興味があります。工学系の大学に進んで、屋根に液体を塗るだけで発電できるとか、そんな新しいタイプのソーラー発電を開発して持続可能な社会のために貢献できたらと考えています。

当日は、掲載のほかに高校生の夢や環境宣言など、たくさんの思いを語っていただきました。また、座談会の内容を各高校に持ち帰り、伝えてくれました。ご参加のみなさん、ありがとうございました。



大阪大学 環境サークル

GECS

大阪大学環境サークルGECS(以下GECS)は、大阪大学の公認サークルです。大阪外国語大学が大阪大学と合併する前の2003年に、「外大の環境を良くしよう!」という想いのもと集まったメンバーで、GECS (Gaidai Eco ChallengerS)を設立しました。2007年に大阪外国語大学が大阪大学と合併した後、2008年に大阪大学の公認サークルとなり、現在は78名のメンバーで豊中キャンパス、吹田キャンパス、箕面キャンパスを中心に活動を行っています。



大阪大学環境サークル GECS 集合写真

「学生」という立場から環境問題の改善に貢献する

活動内容



GECSのメンバーは現在7つの班に分かれ、活動を実施しています。学内に身近なりサイクルシステムを構築し、大学内の古紙集めプロジェクトを行っている「R班」、学内や地域における壁面緑化の推進を行っている「壁面緑化班」、多くの人に環境に関心を持ってもらえるような環境教育に取り組んでいる「環境教育班」、まちをきれいにすることを目的に、地域のごみ拾い活動を実施している「McK班」、日常的に使うものの共有と再利用を軸に、多くの人を環境活動に巻き込む活動を行っている「SHERRY班」、学内の環境活動の推進を学校に提言を行っている「CCC班」、学内に花卉を植えるなどの緑化活動を推進する「花咲かにいさん班」に分かれています。設立時からこの班編成であったわけではなく、新たな環境課題や環境に対する意識に応じて班を増やしたり、活動の枠組みを広げたりするなど、班にとらわれない柔軟な活動を実施しています。

活動紹介
(McK班)

GECSでは、自治体や地元の環境団体など、外部の組織と連携した活動を数多く行っています。例えばMcK班では週に一度「Weeklyごみ拾い」活動を大学周辺で実施しており、これまでで計124.4kgのごみを拾いました。拾ったタバコやペットボトルの本数、ごみの重量など様々なデータを測定し、得られたデータをもとにごみの多いポイントの分析を行っています。活動の周知や啓発のため、収集・分析したごみデータはweb上で公開をしています。また、記録したデータを基に「まちをきれいに」するための対策として、池田市や阪急電鉄と連携を行い、側溝や高架下などのごみの捨てられやすい場所において、蓋をする、隙間をうめるなど、ポイ捨てを未然に防ぐための対策を実施しています。これらの防止策の効果測定についても、「Weeklyごみ拾い」活動で実施し、池田市に報告を行っています。



清掃の活動の様子

活動を通して
見つけた課題と、
活動の発展

McK班では継続的にごみ拾い活動を実施していましたが、「Weeklyごみ拾い」活動においてその場のごみを拾うことはできても、ごみのポイ捨てそのものをなかなか減らすことができないという課題がありました。その課題を解決すべく、ごみ問題について地元の住民を中心に啓発を行う目的で「スポーツGOMI拾い」イベントを開始しました。大学付近で開催する際は、地元の住民や自治体、商店会からの協力も得ながら実施し、このことがきっかけで商店会の人たちや地元住民の方々とも仲良くなり、ごみ拾い以外のGECSの活動への協力も得られるようになっていきます。

今年の7月末の実施した「スポーツGOMI拾い」では地元住民の29名の方が参加し、計43.9kgのごみを拾うことができました。このイベントは、実際に身近なごみ問題に触れ、まちの美化への意識を高めてもらうことで、ポイ捨ての削減に繋がりたいというねらいで開催しており、このような活動を通してこれまで環境に関心がなかった参加者が「環境は面白い!楽しい!」と考えてくれるようになったことがなにより大きな成果の一つであり、それこそがGECSの活動目的の一つの柱です。

ecoconへの参加について

「自分たちの1年間の活動の振り返りを行うこと」が、ecocon出場の大きな目的の一つです。環境教育などの活動は外部からの評価を得にくく、第三者からの客観的な意見をもらえる機会も多くありません。コンテストでの発表に向けて事前に内部で活動の振り返りを実施することや、コンテスト当日に自分たちの活動の評価を様々な分野の社会人選考委員や他の学生参加者などから得ることで、その一年間で達成できたこと、課題となったことなどを振り返ることができる貴重な機会となっています。それにより活動の範囲や場を広めるという視点も生まれ、ecoconでの発表がきっかけで新しく生まれた企画などもあります。

2014年にグランプリを受賞したことで団体内での士気が上がったことはもちろん、団体内の他の班のメンバーに対する活動内容の共有を行うことができました。また、大学をはじめとした関係者からの評価が高まったことは大きな効果といえます。具体的には、GECSの活動が池田市の環境報告書や新聞の地方紙に活動が掲載されたり、外部との連携について大学からの依頼が増えたりしています。昨年度は惜しくも受賞を逃しましたが、そのことが「よりよい発表を行う」という組織内のモチベーション向上へと繋がるほか、発表のスキル向上や活動そのものの成長にも繋がります。



第11回、12回 ecoconでグランプリをとりました！

ユースとの連携

GECSは現在も他大学の環境団体と連携、協力して活動を行っており、共同でイベントを実施する、新しい活動を始める際に他大学の学生同士で知見の共有を行うなどを行っています。今後はecoconの出場団体とも協力し、団体ごとの得意分野の共有を行い、今まで以上に学生環境活動を活性化できる活動にもチャレンジしていきたいと思っています。また、今後環境教育などの活動を行う際に、大阪大学の学生や地域の高校生と協力して、地域に根差したイベントや企画の実施をしたいと思っています。

大学生の環境活動の応募は、こちらからお願いします。

<ecocon 2016>

全国大学生環境活動コンテスト

ecocon
全国大学生環境活動コンテスト

<ecocon 2016> 全国大学生環境活動コンテストって何？

「全国大学生環境活動コンテスト」は、環境に関心のある全国の大学生が1年に1度集まり、発表・交流・学習を行うコンテストで、今年の12月23日(祝・金)、24日(土)に第14回目を開催します。これまで全国各地から延べ600団体以上、延べ10,000人以上が参加しています。当日は学生だけでなく企業、行政、学識経験者、環境団体などの社会人の選考委員を交えて、1年間実施した活動の振り返り、評価を行います。コンテスト以外にも、交流会、分科会などの環境に関わる様々なイベントを開催しています。近年は、高校生の参加も部分的に受け入れていますので、ぜひ参加してみてください！

全国ユース環境ネットワークが協力！

「全国大学生環境活動コンテスト」は、「全国ユース環境活動発表大会」主催の環境省が後援、独立行政法人環境再生保全機構が共催、全国ユース環境ネットワーク事務局が協力しています。

環境活動に取り組んでいる大学生を募集しています！

名 称：第14回 全国大学生環境活動コンテスト <ecocon 2016>

日 程：2016年12月23日(祝・金)～24日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター



昨年度の様子



応募・詳細は！ → <http://www.ecocon.info/>

<お問合せ> 東京都港区西新橋 2-11-5 TTK西新橋ビル3F (株)ダイナックス都市環境研究所内
TEL: 03-3580-8284 FAX: 03-3580-8265 Mail: support@ecocon.info URL: <http://www.ecocon.info/>



WWF ジャパン
(世界自然保護基金)

早稲田大学高等学院
環境プロジェクト



WWF・TRAFFIC スタッフと記念撮影をする
早稲田大学高等学院 環境プロジェクトのみなさん

今年は「ワシントン条約締約国会議」の年!

2016年は、「第17回ワシントン条約締約国会議」が開催される年です。

私たちの暮らしにも、実は関係の深いこの条約をテーマに、WWFジャパンが特別研修を主催、早稲田大学高等学院の皆さんが参加しました。

ワシントン条約とは?

「〇〇空港で、密輸の象牙を押収」といったニュースを聞いたことがありますか? ゾウの牙は、工芸品の原料や富の象徴として高値で取引されます。象牙をとるためにたくさんのゾウが殺され、多くの国で絶滅の危機にひんすることとなりました。

ワシントン条約(英語での略称は「CITES」)は、こうした問題を防ぐために、人間の利用によって大きな影響を受けている野生生物を対象に、その国際取引を規制する条約です。

トラフィックの活動

現在、ワシントン条約で規制されている生きものは、動物が約5,600種、植物が約30,000種。しかし、こうした生きものが密猟・密輸される事件も起きています。そこでWWF(世界自然保護基金)は、IUCN(国際自然保護連合)と共同で「トラフィック」という機関を設立。野生生物の



取引の状況を常にモニタリングし、過剰な取引から野生生物を守るための活動をしています。

センザンコウ ©Meg Gawler / WWF

さまざまな動物が議題に

2016年は、2~3年おきに開催される「ワシントン条約締約国会議」の年にあたることから、WWFの特別研修では、トラフィックのスタッフが、会議でどのようなことが話し合われるかを中心にレクチャーをおこないました。

アフリカゾウやライオン、サメやエイ、そしてセンザンコウという聞き慣れない生きものまで、さまざまな動物が議題にあがっていることが解説されました。

「遠い世界の話」ではない

ペット用に売られている爬虫類や鳥類、観賞魚の中にも、ワシントン条約の対象種がいます。また、「蒲焼き」が人気のウナギも、個体数の減少や違法取引が問題になっています。私たちの暮らしにとって、ワシントン条約は決して「遠い世界の話」ではないのです。

野生生物を、絶滅させることなく利用していくための解決策の一つとして、ワシントン条約への関心が高まることを、WWFとトラフィックは願っています。

感想

早稲田大学高等学院
環境プロジェクト

(環境活動に取り組む有志グループ)



土屋大輔さん(3年)

今回、背景と現実を知り、事態は想像以上に厳しく、ショックでした。自分の出来ることを行動していきたいです。



室井利彦さん(3年)

世界中の動物事情について学びました。最も印象的だったのは、日本人の生活や日本の生態系についても大きな影響があることです。



今村友輝さん(3年)

ワシントン条約において規制されている種には、ウナギや虎などといった我々の極めて身近な生物も含まれていたことが衝撃的だった。



大野拓実さん(2年)

希少種であることで価格が上がり、富裕層が自分の財力を示すために購入するという「負の連鎖」を断ち切るための条約がCITESなのだと感じた。



小野谷拓真さん(2年)

行き過ぎた商業取引によって野生生物を絶滅させない。かけがえない生物を守る意義を考えさせられました。



安藤宝仁さん(1年)

野生生物の個体数など、知らないことが多くあることに気づかされました。今後、気にしていきたいです。

WWFの活動をぜひご支援ください

WWFは100カ国以上で活動する地球環境保全団体です。その活動はすべて皆さまからのご寄付や募金で成り立っています。ぜひ世界の自然保護に力を貸してください。



私たちはWWFです
人と自然が調和して生きられる未来をめざして、地球環境の悪化をくい止めるさまざまな活動を実践しています。

www.wwf.or.jp

世界と協力して人類の共通の課題の解決に取り組む

国連大学サステナビリティ高等研究所

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



国連の新しい目標

世界は今、気候変動、生物多様性の喪失、貧困、紛争など様々な問題を抱えています。これらの問題を解決するため、国連の加盟国は2015年ニューヨークの国連本部で「持続可能な開発目標(SDGs)」に合意しました。SDGsは、2030年までにより良い世界を築くための目標で17のゴールが設定されています。この世界の大きな目標を達成するためには、国や地域社会、企業や専門家などすべての人が分野を越えて協力する必要があります。

国連大学について

国連大学は、目標の達成に向け日々様々な研究活動や能力開発活動を行っています。日本に本部が置かれている唯一の国連機関である国連大学の東京の本部のほかに、世界12か国に研究所や研究プログラムが存在し、国際機関や研究者のネットワークと協力し、社会的・経済的・環境的側面から問題の独創的な解決策を生み出そうとしています。

17目標への取組

国連大学サステナビリティ高等研究所が行う、農業多様性とサステナビリティに関する研究では、農業者が多様な自然環境や社会条件を農業生産に活かしている農業システムの研究を行い、アジアを中心に世界農業遺産の発展に貢献しています。世界農業遺産は、国連食糧農業機関が2002年に開始した仕組みで、地域の多様な自然資源に適応し、地元の知識と経験に基づき何世代にも渡って維持されてきた各地域の独創的な農文化的システム全体を認定し、その保全と持続的な活用を図るものです。2016年現在、15か国36地域が認定され、日本国内でも8地域が認定されています。国連大学は日本で初めて世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」がある石川県にも「いしかわ・かなざわオペレー

ティングユニット」として研究拠点を置いています。この拠点では、国際的にも高く評価され保全が望まれる石川の豊かな自然と文化を次世代に手渡してゆくため、「能登の里山里海」の価値を高めるための活動のほか、地域に根ざした研究や活動を柱としています。そしてその成果を持続可能な社会づくりにつながる日本の地方モデルとして、国際社会に発信し、地域からの国際的な課題解決に取り組んでいます。これらの活動を通じて、SDGsの11「住み続けられるまちづくり」、14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさを守ろう」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」に貢献しています。

国連大学サステナビリティ高等研究所はこのような活動の実績を活かし、今後も持続可能な未来の構築に向け、研究・政策立案・能力開発に関する活動をさらに進展させ、SDGsの達成に貢献できるよう全力を尽くします。



国連大学本部ビル(東京・渋谷)

参加高校生募集中!

「第2回 全国ユース環境活動発表大会」

2017年2月4日(土)&5日(日) 国連大学 ウ・タント国際会議場で開催!

現在、参加高校生を募集中!

高校生の感想

前回の大会に出場した高校生から、「参加して良かった!」という感想が事務局に寄せられました。一部ですがご紹介します。

全国大会に出場することができ、全国の高校生の皆さんと交流することができたことが一番の思い出になりました。発表は国連大学で非常に大きな会場に驚きました。そして、今まで無かった緊張と達成感でいっぱいでした。出場できたことは、私にとって良い経験になりました。

多くの学校が素晴らしい活動をしていてびっくりしました。私たちの活動にも生かせる点があったので、これからの活動に生かしていきたいです。副賞で海外や国内で勉強できる機会があるのは素晴らしいと思いました。

校内で私たちの活動を紹介しても、あまり興味を示してくれなかった生徒も少なくなかったのですが、今回の全国大会出場がきっかけとなって、以前より関心を持ってもらうことができたと思います。

「〇〇高校では〇〇をやっていた。」だから私たちも「〇〇」に挑戦しよう。「〇〇」を改善しよう。などというように自分たちの活動を改善・進化させることができています。

交流会では、環境省の職員と他校の方々、大学生や、大人の方々と意見を交換したり、環境問題以外についても様々な交流する事ができました。仲良くなった他校の生徒とは今でも繋がりが有り、非常に有意義な交流会でした。

前回(第1回)全国大会での集合写真

「第2回 全国ユース環境活動発表大会」
開催概要

主催) 全国ユース環境活動発表大会実行委員会
(環境省/独立行政法人環境再生保全機構/
国連大学サステナビリティ高等研究所)

協力) 環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)
地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)
全国大学生環境活動コンテスト実行委員会
WWFジャパン

協賛) キリン株式会社
協栄産業株式会社
SGホールディングス株式会社



詳しい応募要領は、本誌のP2~P4をご覧ください。

環境省からのお知らせ

賛同募集中! 国民運動「COOL CHOICE」にぜひご参加ください!



未来の
ために、
いま選ぼう。

地球温暖化対策のための「賢い選択」

クールチョイス

検索

環境再生保全機構からのお知らせ



環境保全活動を支えるための

「地球環境基金サポーター」を募集しています!

地球環境基金は、民間団体(NGO・NPO)が行う環境保全活動を支援しています。地球環境を守るために、ご支援宜しくお願いいたします。詳しくはこちら ⇒ <http://www.erca.go.jp/jfge>

環境情報誌について

この環境情報誌は、「全国ユース環境ネットワーク事務局」より、全国の約5,000高校、および全国で環境活動を推進している大学生・ユースの方々にお送りしています。みなさまの環境活動に関する情報やご意見などを、どうぞ事務局までご連絡ください。



昨年度に引き続き、事務局を務めます。高校生のみならず、少しでも全国大会に興味を持たれたら資料請求を! みなさまのご応募お待ちしております。

全国ユース環境ネットワーク事務局スタッフ